

---

# Crescent

頼那

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Crescent

### 【Nコード】

N4208M

### 【作者名】

頼那

### 【あらすじ】

平々凡々な僕と変な友達とその他の人々の日常。

頬を叩かれたり、やったこともないスポーツでこてんぱんにされたりと、色々なことがあって、僕は立ち直ることができた。

弱い弱い僕はみんなの力を借りてしまったけれど、きちんと前を向いて歩かなきゃいけない。

それが、僕がみんなと一緒にやっと見つけた道だから。

## 附箋の無いノート

今日、最高気温は27度らしい。

朝の天気予報で、そんなことを放送していた。

だが、どうかんがえても30度はゆうに超えているだろう。

僕のいる大学の一室で、クーラーが壊れているにもかかわらず、一生懸命講義を行う先生の根性は見上げるものがある。

広い講堂だが、階段のように段になった机が端から端まで置かれていて、一番前にある先生が講義を行うスペースしか十分な場所がないため、とても狭く感じてしまうのは仕方がないことだろうと思う。

しかし、クーラーが壊れているのは仕方がないでは済まされない。

「ちょっと、暑すぎない？」

和紙で作られた団扇をパタパタと扇いでいる、僕の席の隣のやつに喋りかける。僕らの席は結構後ろ側なので、先生は僕らが喋っていることすら認識できないだろう。

「まあ、な。」

最高気温は27度だと聞いたんだが、30度はあるな」

なんとまあ、僕と同じことを思っているようだ。

暑そうな顔をしているのかと思えば顔を向けると、案外いつもと変わらないみたいだ。

本人曰く暑いからという理由で、いつもはサラサラと靡く長い黒髪を後ろで一つに束ね、基本的に男性からの告白やメアド教えて等の台詞が絶えない綺麗な容姿がそのままとなっていた。

とても綺麗な流線型を描く彼女の輪郭と、ほんの少しだけ釣り上がった眼、透き通るような白い肌は、力強さと繊細さを備えているように、彼女の性格を表しているよう。

まさに、大和撫子と呼ぶに相応しい外見。

「どうした？」

そんなに見られると、顔に何かついていないか心配になるんだが」

彼女が僕の視線に気づいたらしく、彼女も視線をこちらに向ける。

僕はそれに、なんでもないと短い返事をして、自分の腕時計を見る。

もうそろそろ、本日最後の講義が終わる時間だった。

「凜、今日空いてる？」

今日、何人か誘って飲み会でもしようかな。

まあ、変な友達ばかりだけど。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4208m/>

---

Crescent

2010年11月9日05時27分発行